

中国地方のスーパーで、自分専用の買い物かごの利用が徐々に広がっている。昨年のレジ袋有料化を受け、エコバッグ代わりに使う客が増加。レジでの精算後に退店するまでの時間が短くできる利点もあり、店側も新型コロナウイルス禍で導入を進めている。

(岡井晴信)

## 袋詰めの時短や密回避

# 地場スーパー コロナ機に導入も

マックスバリュ西日本(広島市南区)では、店内で売る専用かご「マイバスケット」の利用が増えてきた。全店でレジ袋を有料化し、昨年6月以降に伸長。11月までの半年間の納入数は、5月以前の半年間より3割増えた。1個390円で、返却時には返金。同社は「レジ袋有料化を機に実質無料のかごに注目が集まった」と説明。コロナ禍でのためする機会の増加も一因とみる。

マイバスケットは店のかごの下に重ねてい物し、レジでの精算時に商品を移してそのまま持ち帰れる。買い物しながら商品の値を入力する端末を使えば、マイバスケット直接入れることができ、移し替える手間も減る。マックスバリュ段原店(同)を利用する南区の主婦西田真美子さん(39)は、「子どもが小さいので、袋に詰める手間と時間がからないのは助かる」と歓迎する。

コロナ禍を機に取り入れた店もある。地流通大手イズミ(東区)は今年6月、ゆめワン広島(南区)など80店で導入した。30円で販売。車で来店し、購入品の多い客中心に利用が増えている。「会計後に、袋詰める台の周辺の密集回避につながる」としている。

## エコバッグ代わり



マックスバリュ段原店でマイバスケットを使う買い物客

# マイ買い物かごじちち拡大

## ポプラ商品 ウーバーで配達

コンビニのポプラ(広島市安佐北区)は24日、ウーバージャパン(東京)の宅配サービス「ウーバーイーツ」を使った食品や日用品の配達を始める。「ウーholt」に続く宅配で、中区の広島平野町店と八丁堀店でスタートし、年内に全国100店に広がる。配達先は店から半径6.8キロ以内。スマートフォンアプリで注文を受け、約30分で配達員が届ける。店で炊いたご飯を盛り付ける弁当「コップ

## 広島2店舗で開始

「お」や飲み物、ティッシュペーパーなど店に置く約380種類を扱う。商品価格は店頭約3割増し。購入額の10%分の手数料が別に必要で、距離や時間帯によっては上乗せする。ポプラは4月、ウーholtでの宅配を開始。目標を超える利用があり、ウーバーも使えるようになる。「これまで来店の機会がなかった新規客を取り込みたい」としている。

(橋本知美)

## 子ども支援へ古着回収

ポリオワクチン接種費用に  
商工中金広島西部支店 協力呼び掛け



集めた古着を回収袋に詰める阿曾支店長(左から3人目)たち

協力を呼び掛けている。2袋目は9月末をめどに送る予定。阿曾延見支店長は「商工センターにはさまざまな職種がある。SDGsの取り組みを通じて団地の一体感をつくり、仕事面での連携にもつながれば」と話している。

(加田智之)

商工中金広島西部支店(広島市西区)が、古着を集めて海外の子どものポリオワクチン接種費用に充てる活動をしている。支店のある流通団地「商工センター」の企業にも協力を呼び掛けており、団地を挙げた活動を目指す。

民間企業や認定NPO法人が企画する活動に賛同し、国連の「持続可能な開発目標」(SDGs)に向けた取り組みとして6月に始めた。専用の回収袋を1枚3300円で買い、古着を詰め込んで活動の運営会社へ送ると、1袋(25キロまで)当たり5人分のワクチン寄付につながる。最初の1袋は支店の従業員から集め、8月に送った。

商工センターには卸や食品、輸送など各業界でつくる協同組合が複数あり、それぞれ事務局を通じて

## 新ビジネスのプランを募集

中国地域ニュービジネス協議会(広島市中区)など中国地方の女性を対象としたビジネスプランのコンテスト「SOERU(ソール)」を聞く。9月2日まで応募を受け付ける。始めて5年以内が、これから始める事業が対象。新しさや将来性などの観点で、技術やサービスを審査し、賞金1人、優秀賞3人、特別賞若十名を表彰する。一次審査は書類のほか、